

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議（第5回）

議事概要

1 日時

令和3年10月27日（水） 19:00～20:35

2 場所

石川県庁11階1105会議室

3 出席者

座長	谷内江 昭宏	金沢大学附属病院 副病院長
委員	阪上 学	国立病院機構金沢医療センター 副院長
	飯沼 吉嗣	金沢医科大学病院 感染制御室長
	岡田 俊英	石川県立中央病院 病院長
	新多 寿	小松市民病院 病院長
	高田 重男	金沢市立病院 病院事業管理者
	吉村 光弘	公立能登総合病院 病院事業管理者
	安田 健二	石川県医師会 会長
	小藤 幹恵	石川県看護協会 会長
	市村 宏	金沢大学医薬保健研究域医学系 特任教授
	三宅 邦明	株式会社ディー・エヌ・エー チーフメディカルオフィサー

※厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策本部技術参与

※品川委員は、所用により欠席

4 議事概要

<県健康福祉部長挨拶>

- ・ 今月6日に開催した前回の専門家会議では、令和2年9月の中間提言を踏まえた本県のこれまでの後の取組について検証いただくとともに、今後想定される感染の再拡大・急拡大に備えた対応について、主に「医療提供体制」と「検査体制」を柱にご議論いただいた。
- ・ 本日は、前回のご議論を踏まえて、今後の新型コロナウイルス感染症への対応について、資料にまとめましたので、委員の皆様にご議論いただきたい。

<資料 今後の新型コロナウイルス感染症への対応について>

第5波までの対応を踏まえた今後の方向性及び、その具体的対応について、意見交換。

<意見交換：今後の新型コロナウイルス感染症への対応について>

(1 第5波までの対応を踏まえた今後の方向性 (総論))

- ・記載のとおりです承。

(2 具体的な対応 (施策の現状と今後の対応方針))

(ア 重症化リスクの早期把握、早期治療の徹底)

- ・メディカルチェック機能の拡充により、病床数を大幅に増やすことなく、医療提供体制は強化できる。
- ・メディカルチェックセンターの追加確保やエリアの拡大が重要。
- ・病院の負担は大きくなると思うが、患者にとってもメリットが大きいことから、メディカルチェックから抗体療法に繋げる体制を構築することが重要。
- ・外来での抗体療法の実施については、例えば、1日の入院で行うなど、各病院の実情に応じて実施することが望ましい。
- ・介護施設には医師等がない場合もあるため、クラスターが発生した場合の抗体療法実施に向け、予め段取りを決めておくことが大事。

(イ 自宅療養者の支援体制の強化)

- ・特に第5波で、自宅療養から入院された方は、救急搬送ではなく、健康観察により変調が発見された方が大半。健康観察がしっかり機能しており、この体制の維持は大切。
- ・自宅療養者の健康観察時の相談内容が、体調面だけではなく、仕事や子どもの世話、解除の書類手続きなど、生活全般に及ぶことから、幅広い経験知識・対応力が必要。
- ・往診・電話診療を行う医療機関の追加確保や、健康観察に協力いただいている看護協会からの応援拡大が大切。

(ウ 医療提供体制の確保)

- ・一般医療への影響の観点から、これ以上の大幅な増床は難しいかもしれないが、

他の感染症や災害時なども考えて、中長期的な視点から、臨時の医療施設の運用について、丁寧に検討しておくことは必要。

- ・臨時の医療施設は、医療従事者の確保が最大の課題。医療機関の休床活用など、急遽、人を集めないで済む方法を考えるべき。

(エ 検査体制の強化)

- ・繁華街や病院・介護施設等における一斉検査について、検査のタイミングなどを予め決めておくことが大切。
- ・繁華街やカラオケクラスターなど、市中の広がりをうまくとらえて、一斉検査を実施し、警鐘を鳴らすことは有効。
- ・冬場になるとインフルエンザが流行するので、コロナとインフルエンザの両方、検査できる体制が必要。
- ・空港検疫や首都圏・関西圏での流行のデータを監視しながら、県独自のスクリーニング体制を構築することも有効ではないか。
- ・クラスター時の検査体制として、PCR検査だけではなく、細かく遺伝子解析することで広がりを解明できるのではないか。

5 その他

今後の新型コロナウイルス感染症の対応案の方向性については、出席委員から概ね了承が得られ、提言のとりまとめについては座長に一任。